

『通常物問答』(明治一〇年)の語彙とその性格

—付 語彙索引—

The analysis of vocabulary of TSUJIBUTU-MONDOU(1877)

Appendix a words list of it

大橋 敦夫

OHASHI Atsuo

キーワード：日本語語彙・明治期語彙・『通常物問答』

要旨

明治初期に作成された「通常物」を対象とした語彙集には、図解を伴うものが多い。本稿では、それら類書のうち、図解のないタイプである『通常物問答』(明治一〇年)を取りあげ、語彙索引を作成し、その語彙の特徴について考察した。これまで考察してきた類書との比較から、本書が収録している語彙の意味分野では、動植物・人間関係・組織の語が多いこと、また、問答文の展開には、いくつかのバリエーションがあることがわかった。

一 はじめに

これまで、「通常物」を対象とした以下の図解語彙集の考察を行なってきた(注1)。

- ① 『通常物図解便覧』(明治九年) 一五二語・一五分類
- ② 『通常物図解問答』(明治一〇年) 一三〇語・一三分類
- ③ 『通常物懸図教授法』(明治一一年) 二〇〇語

これらは、単語の脇に、その語を示す図があることが前提となった語彙集である。「通常物」という共通の名称を持ちながらも、収録している語彙には、それぞれ個性がある。いずれ、当時の編纂者の想定していた「通常物」の全体像をつかむこと、編纂にあたっての参考・参照資料類を探る

ことが課題となる。

今回は、これらの類書ではあるが、図解のないタイプの資料を対象とし、今後の考察の土壌を広げることを目的とする。

二 資料の紹介

まず、書誌的事項を示す。

『通常物問答』（明治十年八月刻成）

著者 能島武夫（愛知県）

出版人 伊藤善太郎（三重県）

架蔵本は、内表紙欠落。本文二七丁。裏見返しに刊記・著者・出版人を示す。和装タテ一八・一×二二・三cm。黄色表紙・木版。

内容は、上篇（一〜六丁）・下篇（七〜二七丁）に分かれ、上篇で問答の要領を説く。ここでは、教師も生徒も、ともに「漢語僻語等ヲ用ヒズ」ということを強調している（四・才）。具体的な、問答は下篇から始まる。

なお、本書の全文は、国立国会図書館の「デジタルコレクション」で公開されている（請求記号「特38—368」）。こちらは、金属活字による印刷と目され、一頁の行数は一〇行で同じながら、「〇」を用いて追い込みをしない箇所がいくつかあるので、丁数がかさみ、全三二丁である。

項目語に相違はないが、ルビの有無に若干の差異があり、架蔵本よりも、ルビの例がやや多い。

三 『通常物問答』（明治一〇年）の語彙の特徴

三―一 意味分野から見た語彙の特徴

下篇で問答する語（以下、項目語と称す）は、全一六四語（重出例が三例ある・注2）である。問答の中で、意味分野まで明示している例は、三

四語で、意味分野を示さない項目語の方が多い。

また、明示している意味分野も八分野（器財・食物・動物・器具・地理・居處・衣服・布帛）のみである。これ以外の意味分野を私に立項し、語彙分布を付すと、以下のようなになる。

■意味分野と項目語数

器財……………三五	船具……………三	組織……………二四
食物……………三	建物……………一	
動物……………一	動物……………二三	
器具……………一	植物……………一〇	
地理……………八	鉱物……………二	
居處……………一	氣象……………一三	
衣服……………一	物体……………五	
布帛……………五	人間関係……………二八	

書名に「図解」の語がある類書と比べると、意味分野数の広がり、ほぼ同数（注3）ながら、動植物・人間関係・組織に関する語が多いことが本書の特徴である。

三―二 類書との語彙の一致

これまで調査してきた次の類書と一致する語彙を観察する。なお、本書は、項目語に殆どルビがないので、私に読んで考察を進める。

① 『通常物図解便覧』（明治九年）

② 『通常物図解問答』（明治一〇年）

③ 『通常物懸図教授法』(明治一一年)

A. 本書と三書に共通して掲出する項目語

釘・蒸気船・電信機・鑿・馬車・針

*開花期を象徴する乗り物と通信機器、それと基本の工具と器財である。

B. 本書と二書に共通して掲出する項目語

B―1 ①・③と共通の項目語

合羽(③襷袢)

B―2 ②・③と共通の項目語

避雷柱(②らいよけばしら・③かみなりよけ)

*漢字表記と読み、違いが見られる。

C. 本書と一書に共通して掲出する項目語

C―1 ②と共通の項目語

寫真・水車・風車

C―2 ③と共通の項目語

新聞紙・人力車(③步輦車)・荷車・窓(③窗)

*器財の分野を中心に、開花期の活況を感じさせる語が多い。

三―三 特徴的な語詞、ルビに見られる特徴

A. 特徴的な語詞

〔問答文〕

推究(四・ウ)

記憶(六・オ)・通送(二〇・ウ)・發録(二二・オ)

*現代日本語では、あまり見かけない漢語・漢語表記である。

B. ルビのある語詞

〔項目語〕

大鶴(ススミタカ 一七・オ) 左注として「コンドル」

鷓鴣(コルモフン 一七・オ)

*外来語による左注、外来語の読みがついている。

浮標(ウケノ 二二・オ 左注)・濤標(ミヲツクシノ 二二・ウ 左注)

*項目語の左にあり、左訓注のようである。

〔問答文〕

機関(カラクリ 五・オ)・順風(オヒ 五・オ)・紬(ツヤグスリ 一

一・オ)

四 問答文の展開

本書の問答文は、類書と違い、ワンパターンな問答で押し切ることはない。以下のような複数のパターンが認められ、織り交ぜられている。

① 問答を類別で締めくくる例

油ハ何物ニテ造ルヤ○菜種胡麻荳等ニテ造ルナリ

其ヲ造ル方法如何○種ヲ粉ニシ蒸シ搾リ造ルナリ

何類ナルヤ○食物類ナリ(七・オ)

*最後に類別を問うているが、このスタイルは、下篇の冒頭からの三三語で途切れ、後半で一語(「電信機」)、その例が加わる(「類別を示さない例が多数となる」)。

② 類語との区別を問う例

毛織ト木綿ノ區別如何○毛織ハ獸毛ノ絲ニテ織リ木綿ハ草綿ノ絲ニテ織リタルナリ(十一・ウ)

*一九例あり、本書の特徴の一つと言える。

③ 問答(質問)が発展・展開する例

新聞紙ハ何物ナルヤ○江湖ノ奇事異聞ヲ發録シ浩ク世人ニ知ラシムル物ナリ

是ヲ讀ムトキハ何ノ益アリヤ○田舎僻陋ニ寓スルニ室中ニ坐シ浩ク天下ノ形勢ヲ知り且ツ智識ヲ増加スルノ益アリ (二十一・オ)

④ その分野の究極を問う例

人類生活ニ最用ナル物如何○空氣ナリ (二十三・ウ)

⑤ 発明者や由来を問う例

避雷柱ノ作用如何○空中ノ電氣ヲシテ此尖銳ナル處ニ入ラシメテ

端ノ鏈鎖ヨリシテ地中或水中ニ導クナリ

何人ノ發明ゾ○米人弗蘭克林氏ノ發明ナリ

我紀元何年ノ事ゾ○神武紀元貳千四百十七年ノ事ナリ (十七・オ)

* 発明者フランクリンと發明の年号に及んでいる。他に、「寫真」

(二十一・ウ)、「輕氣球」(二十六・オ)も同例である。

口頭での問答を生かすための工夫の表れが、このパターンの種類であると言えよう。

五 まとめ——今後の課題——

「通常物」を冠する語彙集の広がり(特に収録語の意味分野)を見ることができた。

今後は、未調査の類書の考察とともに、前後の時代の関連資料を視野に入れ、考察を深めたい。

(注)

1 ①～③について、以下の拙稿で取り扱った。

① 「『通常物図解便覧』(明治九年)の語彙とその性格——付、語彙素

引——』『学海』第一八号 上田女子短期大学国語国文学会(二〇〇一・三)

② 「『通常物図解問答』(明治一〇年)の語彙とその性格——付 語彙索引——』『上田女子短期大学紀要』第二六号(二〇〇三・一)

③ 「『翻刻・索引』『通常物懸圖教授法』(明治一一年)』『上田女子短期大学紀要』第二九号(二〇一六・二)

『通常物懸圖教授法』(明治一二年)の語彙とその性格』『上田女子短期大学紀要』第四〇号(二〇一七・一)

2 「獸類」(三回)「草類」(二回)「鳥類」(二回)が、その例である。したがって、異なり語数は、全一六〇語となる。

3 たとえば、本書の一七分野に対し、『通常物図解便覧』(明治九年)では二五分野、『通常物図解問答』(明治一〇年)では一三分野である。

【参考文献】

『リプリント日本近代文学117』『通常物図解便覧』Tsujibutsu Zukai

bonnan』二〇〇七・三 発行：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 発売：平凡社

◆『通常物問答』（明治一〇年）の項目語索引◆

〔凡例〕

- ・項目語を私に読んで、五〇音順に配列した。
- ・異体字は可能な限り活字化した。
- ・意味分類は、私に設けたものも含む（本文参照）。

項目語	読み	意味分類	丁数
■あ行			
油	あぶら	食物	七・オ
尼	あま	人間関係	一四・オ
雨	あめ	気象	一五・ウ
霰	あられ	気象	一六・オ
電	いなずま	気象	一六・ウ
犬	いぬ	動物	二七・オ
稲	いね	植物	二二・ウ
鋳物師	いものし	人間関係	一三・オ
浮標	うけ	船具	二三・オ
牛	うし	動物	二三・ウ
荏	え	食物	七・ウ
縁木鳥類	えんぼくちようるい	動物	二六・ウ
甥	おい	人間関係	一二・ウ
大蔵省	おおくらしょう	組織	一八・ウ
伯父	おじ	人間関係	一二・ウ
叔父	おじ	人間関係	一二・ウ
伯母	おば	人間関係	一二・ウ

項目語	読み	意味分類	丁数
■か行			
叔母	おば	人間関係	一二・ウ
海軍省	かいぐんしょう	組織	一八・ウ
蠶	かいこ	動物	一三・オ
海水	かिसい	地理	一五・オ
外務省	がいむしょう	組織	一九・オ
舵	かじ	器財	五・ウ
鍛冶師	かじし	人間関係	一三・オ
果實	かじつ	植物	二四・ウ
風	かぜ	気象	一五・ウ
華族	かぞく	人間関係	一三・ウ
家畜	かちく	動物	二七・オ
合羽	かっぱ	衣服	一〇・オ
貨幣	かへい	器財	一二・オ
雷	かみなり	気象	一六・ウ
硝子	がらす	器財	一五・オ
官員	かんにん	人間関係	一三・ウ
灌木	かんぼく	植物	二四・オ
氣狀體	きじようたい	物体	二五・ウ
絹	きぬ	布帛	一一・ウ
教員	きよういん	人間関係	一八・オ
喬木	きようぼく	植物	二四・オ
魚類	ぎよるい	動物	二五・オ
霧	きり	気象	一六・ウ

金属	きんぞく	鉱物	一三・ウ	左官	さかん	人間関係	一三・オ
區扱所	くあつかいしょ	組織	一九・ウ	酒	さけ	飲物	七・ウ
空氣	くうき	気象	二三・ウ	鹽	しお	食物	八・オ
釘	くぎ	器財	一〇・ウ	士族	しぞく	人間関係	一三・ウ
叢	くさむら	地理	一四・オ	四足獸	しそくじゅう	動物	二七・オ
鯨	くじら	動物	二七・オ	紙幣	しへい	器財	一二・オ
宮内省	くないししょう	組織	一八・オ	司法省	しほうししょう	組織	一九・オ
雲	くも	気象	一五・ウ	霜	しも	気象	一六・オ
車	くるま	器財	八・オ	尺	しゃく	器財	九・オ
軍艦	ぐんかん	器財	一一・ウ	寫真	しゃしん	器財	二一・ウ
輕氣球	けいききゅう	器財	二六・オ	獸類	じゅうるい	動物	二三・ウ
毛織	けおり	布帛	一一・ウ	獸類	じゅうるい	動物	二四・ウ
縣廳	けんちょう	組織	一九・ウ	獸類	じゅうるい	動物	二七・オ
元老院	げんろういん	組織	一九・オ	巡查	じゆんさ	人間関係	二〇・ウ
公債証書	こうさいししょうしょ	器財	二一・オ	小學師範學校	しょうがくしはんがっこう	組織	一七・ウ
工部省	こうぶしょう	組織	一八・ウ	小學校	しょうがっこう	組織	一七・ウ
氷	こおり	気象	一五・オ	蒸氣車	じょうきしゃ	器財	一四・ウ
國立銀行	こくりつぎんこう	組織	二〇・オ	蒸氣船	じょうきせん	器財	四・ウ
穀類	こくるい	植物	二四・オ	証券印紙	しょうけんいんし	器財	二一・オ
固形体	こけいたい	物体	二五・ウ	涉水鳥類	しょうすいちようるい	動物	二六・ウ
戸長	こちよう	組織	一九・ウ	商船	しょうせん	器財	一二・オ
鷗鷺	クルマフォン	動物	二七・オ	植物	しよくぶつ	植物	二五・ウ
■さ行				新聞紙	しんぶんし	器財	二一・オ
裁判所	さいばんしょ	組織	一九・ウ	人力車	じんりきしゃ	器財	一四・ウ
				水車	すいしゃ	器財	一四・ウ

大鷗	すずみたか (コンドル)	動物	二七・オ
僧	そう	人間関係	一四・オ
象	ぞう	動物	二七・オ
曾孫	そうそん	人間関係	一二・ウ
草類	そうるい	植物	二二・ウ
草類	そうるい	植物	二四・ウ
祖父母	そふぼ	人間関係	一二・ウ
■た行			
田	た	地理	一四・オ
大學校	だいがっこう	組織	一七・ウ
大工	だいく	人間関係	一三・オ
太政官代	だじようかんたい	組織	一九・ウ
駝鳥	だちよう	動物	二七・オ
淡水	たんすい	地理	一五・オ
中學校	ちゆうがっこう	組織	一七・ウ
虫類	ちゆうるい	動物	二三・オ
鳥類	ちゆうるい	動物	二三・ウ
鳥類	ちゆうるい	動物	二四・ウ
鎮臺	ちんたい	組織	二〇・オ
露	つゆ	氣象	一五・ウ
鐵	てつ	鈹物	二三・ウ
鐵路	てつろ	器財	一四・ウ
電信機	でんしんき	器財	二〇・ウ

陶器	とうき	器財	一一・オ
燈臺	とうだい	船具	二三・オ
動物	どうぶつ	動物	二五・ウ
■な行			
内務省	ないむしょう	組織	一八・ウ
荷車	にぐるま	器財	八・ウ
日本船	にほんせん	器財	六・オ
布	ぬの	布帛	一一・オ
農工商	のうこうしょう	人間関係	一三・ウ
■は行			
鑿	のみ	器財	九・ウ
橋	はし	地理	八・ウ
婢	はしため	人間関係	一二・ウ
馬車	ばしゃ	器財	一四・ウ
島	はたけ	地理	一四・オ
林	はやし	地理	一四・オ
針	はり	器財	九・オ
人	ひと	動物	二五・オ
電	ひよう	氣象	一六・オ
鞆	ふいご	器財	九・ウ
風車	ふうしゃ	器財	一四・ウ
布告	ふこく	組織	二〇・オ

船人	ふなびと	人間関係	一三・オ
兵隊	へいたい	人間関係	二〇・オ
平民	へいみん	人間関係	一三・ウ
舳	へさき	器財	五・ウ
紅	べに	畫具	八・オ
紡車	ぼうしゃ	器財	一四・ウ
法律	ほうりつ	組織	一九・オ
僕	ぼく	人間家計	一二・ウ
牧場	ぼくじょう	地理	一四・オ
檣	ぼばしら	器財	五・オ
帆船	ほまえせん	器財	六・オ
■ま行			
窓	まど	居處	九・ウ
濔標	みおつくし	船具	一二・ウ
孤	みなしご	人間関係	一二・オ
箕	みの	器財	一〇・ウ
無機体	むきたい	物体	二五・オ
姪	めい	人間関係	一二・ウ
綿	めん	布帛	一〇・オ
木類	もくろい	植物	二四・オ
木綿	もめん	布帛	一一・ウ
文部省	もんぶしょう	組織	一八・ウ

■や行			
野菜	やさい	植物	二四・オ
有機体	ゆうきたい	物体	二五・オ
游水鳥類	ゆうすいちようるい	動物	二六・ウ
郵便局	ゆうびんきょく	組織	二〇・ウ
游歩場	ゆうほじょう	建物	一八・オ
雪	ゆき	氣象	一六・オ
■ら行			
避雷柱	らいよけばしら	器財	一七・オ
陸軍省	りくぐんしょう	組織	一八・ウ
流動体	りゅうどうたい	物体	二五・ウ
漁師	りょうし	人間関係	一三・オ
獵師	りょうし	人間関係	一三・オ
鷺	わし	動物	二三・ウ